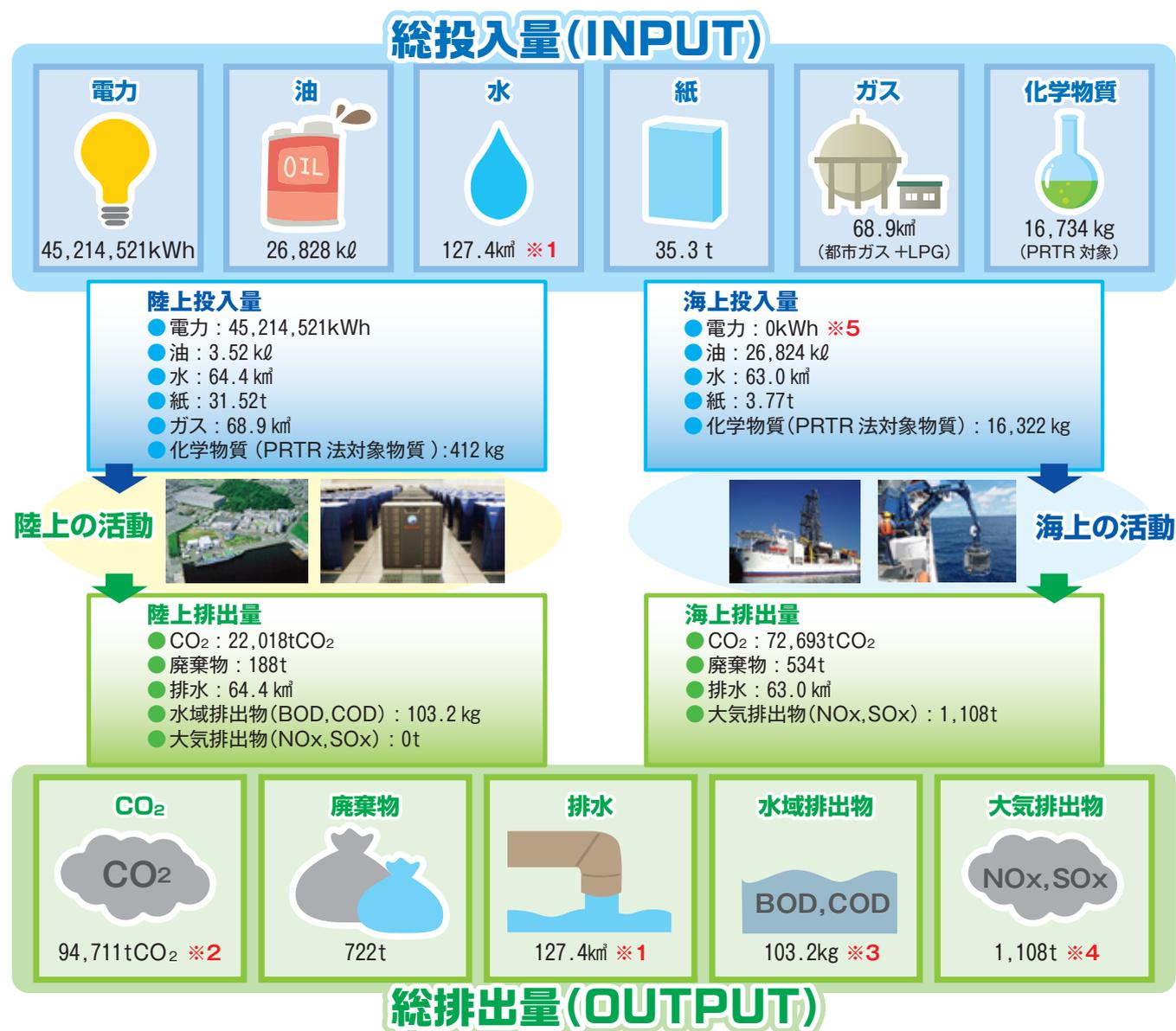


IV. 環境の取組み

① JAMSTECのマテリアルバランス

JAMSTEC全体のマテリアルバランスと環境パフォーマンス

本図はJAMSTECの事業活動に伴う、エネルギーや資源などの投入量 (INPUT) とCO₂や廃棄物などの排出量 (OUTPUT) を表しています。なお、端数処理の関係上、合計と一致しない場合があります。



※1 水のINPUTについては2014年度より船舶における海水からの造水についても計上しています。また、排水量 (OUTPUT) についてはINPUTと同量を記載しています。
 ※2 CO₂排出量についてはエネルギー起源のCO₂排出量のみを記載しています。なお、排出量の算定については、環境報告ガイドライン2012年版 (環境省) による「エネルギー起源CO₂排出量の算定式」によります。
 ※3 水域排出物については生物化学的酸素要求量 (BOD) 及び化学的酸素要求量 (COD) の値から算定しています。
 ※4 大気排出物については窒素酸化物 (NO_x) 及び硫黄酸化物 (SO_x) の値から算定しています。
 ※5 船舶のドックにおける修理は外部委託のため、修理時に消費された電力は集計対象外としました。

② 主要な環境パフォーマンスデータの推移

電気使用量

- JAMSTECの電力消費の大部分は、地球シミュレータ及び空調設備の稼働によるものです。
2015年度に地球シミュレータの後継機の運用が開始され、大幅な使用量の削減を達成し、以降はほぼ同水準で推移しています。
- 船舶の電力消費は、これまでと同様にドックにおける陸上電源の利用に係る消費でしたが、JAMSTECではドックでの作業は外部に委託をしているため、ドックでの作業に係る船舶の電力消費は集計の対象外としています。
なお、船内の発電機により発電した電力の消費量については、燃料油の消費量として評価しています。



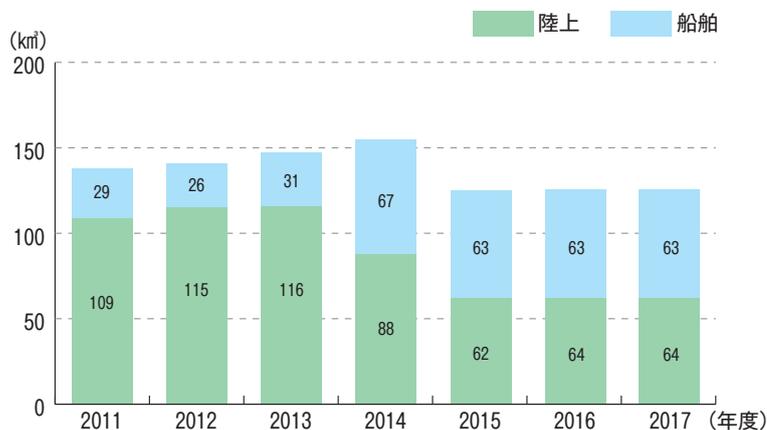
燃料油使用量

- JAMSTECの油類の使用量のほとんどが船舶の運航に係わるA重油です。そのため、船舶の運航形態（航走距離、速力、調査海域、稼働率など）により使用量は変動します。
- 船舶における2017年度の燃料油の消費量は2016年度と比較して約1%増加していますが、ほぼ同水準で推移しています。



水使用量

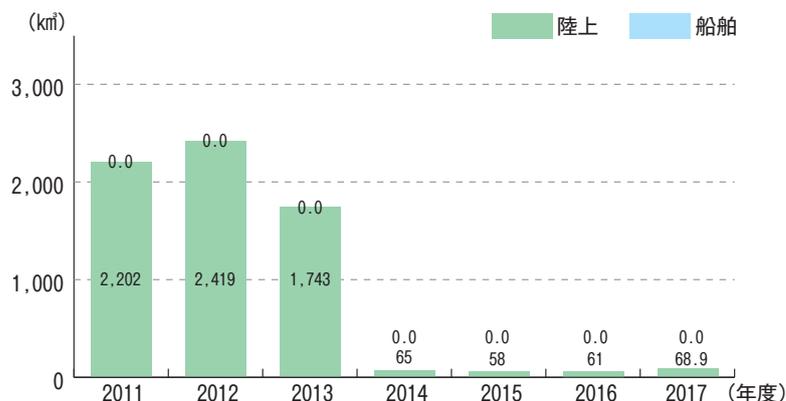
- 水の使用量については、2015年度以降、陸上及び船舶の双方で、ほぼ同水準で推移しています。
- 陸上での水の使用は地球シミュレータの空冷設備の使用に占める割合が高いですが、2015年度に設備更新を行った結果、水の使用は大幅に削減され、それ以降はほぼ同水準で推移しています。



※2014年度より船舶における海水からの造水についても計上しています。

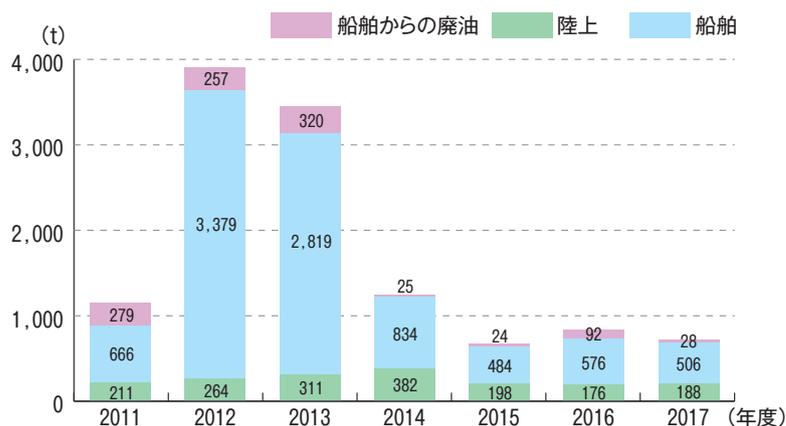
ガス使用量

- JAMSTECでは都市ガスとLPGを使用しています。主な用途は多目的プールの温水ヒーターや暖房、食堂での調理などに使用しています。船上ではガスは使用していません。
- 2017年度のガス使用量は2016年度と比較して約13%増加しています。これは、寒冬のため暖房の使用が増加したこと、加えて多目的プールの使用が増加したことで温水ヒーターの稼働率が増加した結果であると推測されま



廃棄物排出量

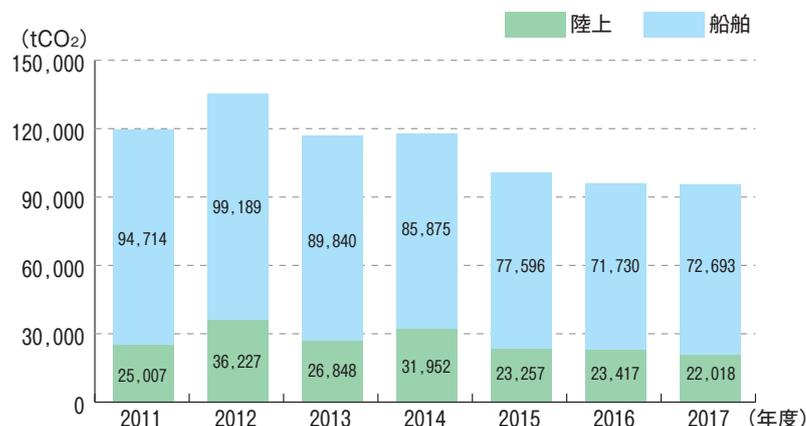
- JAMSTECの廃棄物排出量は、船舶からの廃棄物の排出量によって大きく変動するため、船舶の稼働率に依存します。
- 陸上での2017年度の排出量は、2016年度と比較して約7%程度増加しておりますが、これは高知コア研究所における廃棄物の排出のうち、これまで排出量を把握することが難しかった廃棄物については、廃棄物の種類ごとに係数を定めて新たに算定・計上したことによるものです。
この点を勘案すると、廃棄物排出量はほぼ同水準で推移しており、これは2016年度と同様に紙による資料の減少と大規模な機材更新及び実験室や居室の移動が実施されなかったためと考えられます。
- 船舶での2017年度の排出量は2016年度と比較して、約20%減少しています。これは、荒天による避泊、避航、待機が生じたことで研究開発業務に係る船舶の稼働率が低下し、廃棄物の発生が抑えられたものと考えられます。



※2014年度より、船舶から排出される廃油のうち、洋上焼却により処分した廃油以外のものについては、グラフ中の「船舶」の区分に含めて集計をしています。

CO₂排出量

- JAMSTECのCO₂排出量は、ほぼエネルギーの消費に由来するものです。
- 2017年度の排出量は2016年度と比較して、陸上で約6%減少、船舶で約1%増加し、総量としてはほぼ同水準で推移しています。
- 陸上における約6%のCO₂排出量の削減は、温室効果ガス排出量の算定に用いる電気事業者ごとの係数が2016年度と比較して小さくなっていることが主な要因であると考えられます。



③ 各拠点の環境パフォーマンスと取組み

2017年度の環境改善・社会貢献活動まとめ

| 分類 | 実施内容 |
|--------|--|
| 省エネルギー | <p>冷暖房を使用するうえでの配慮すべき事項を所内で積極的に周知した結果、例年以上の厳しい冷え込みで積雪量も多かった状況下であったが、光熱水費を前年度比5パーセント増以内に抑えることができた。</p> <p>デマンド制御で電力使用量に上限を設けることにより、電力使用量の実質的な削減と職員の節電意識の醸成に繋げることができた。</p> <p>空調室外機へ散布機で水を散布することにより、空調効率が上がった。</p> <p>Wave Gliderを利用した観測を実施することで、同様の観測を船舶により実施する場合に必要なエネルギー消費を削減することができた。 Wave Glider：波の力を推進力に変換して航行することのできる、燃料を必要としない自律型の無人海洋観測装置</p> <p>オンラインによる24時間空調システムの監視により省エネルギー化や経費の低減化に努めた。</p> <p>クールビズの実施について看板の設置やメールニュース等で周知したことにより、取組みの内容が浸透した。</p> <p>パソコンを省電力モード・スリープモードに設定し、また、昼休みは照明を消灯して電力使用量の削減に努めた。</p> <p>サーキュレーターや扇風機などを併用して居室の温度を均一化するようにし、冷暖房を効果的に使用した。</p> |
| 再資源化 | <p>継続的にペットボトルのキャップを回収し、リサイクルに協力している。</p> <p>テプラカートリッジ及びインクカートリッジをリサイクルし、CO₂排出量をそれぞれ約63.8kg及び約79.8kg削減することができた。</p> |
| 紙削減 | <p>各種委員会配布資料のペーパーレス化によりコピー用紙使用量を削減した。</p> |
| 社会貢献 | <p>環境に係るセミナー・講演会等を開催又は参加し、広く環境に関する教育・普及活動を推進した。</p> <p>【開催・参加例】</p> <p>◇第16回海の森作りシンポジウム(主催：海の森づくり推進協会) / CO₂による海水の酸性化と藻類への影響</p> <p>◇海洋地球研究船「みらい」就航20周年記念事業「海を知り地球・生命を考える」—海洋研究開発機構 研究成果・活動報告会/動物プランクトンの痕跡から海の変化をさぐる・「みらい」から見た北極海の変化</p> <p>静岡県清水市及び青森県八戸市においてマイクロプラスチックを題材にした子供・学生向けの環境学習イベントの実施等数多くの社会貢献活動を推進した。</p> <p>インターシップ生を受け入れることにより、現場における作業実態のみならず、安全・環境管理の側面についても実体験として伝えることができた。</p> |

横須賀本部

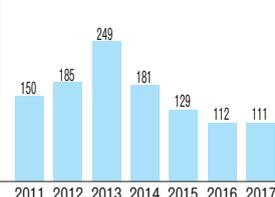
電気使用量(千kWh)



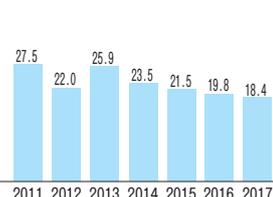
CO₂排出量(tCO₂)



廃棄物排出量(t)



紙使用量(t)



横浜研究所

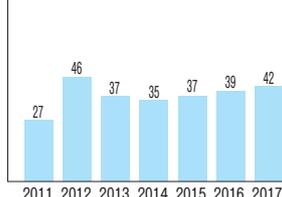
電気使用量(千kWh)



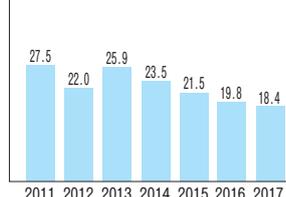
CO₂排出量(tCO₂)



廃棄物排出量(t)



紙使用量(t)



※横浜研究所で使用している紙は、横須賀本部で購入しているため、同じ量を計上しています。

むつ研究所

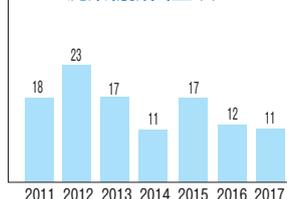
電気使用量(千kWh)



CO₂排出量(tCO₂)



廃棄物排出量(t)

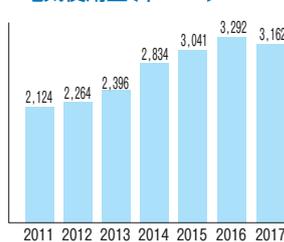


紙使用量(t)

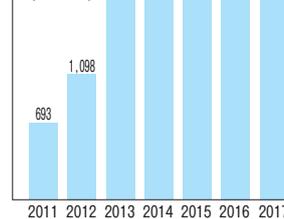


高知コア研究所

電気使用量(千kWh)



CO₂排出量(tCO₂)



廃棄物排出量(t)



紙使用量(t)



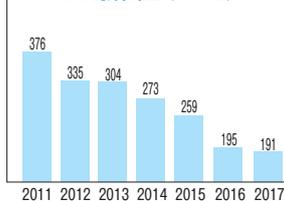
※高知コア研究所における廃棄物排出量は2014年度から集計方法を変更しています。また、2017年度からは、それまで排出量を把握することが困難であった廃棄物について、廃棄物の種類ごとに係数を定め、新たに算定・計上しました。

国際海洋環境情報センター(GODAC)

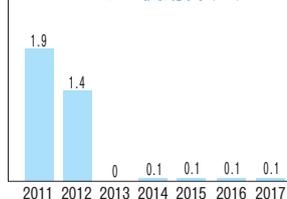
電気使用量(千kWh)



CO₂排出量(tCO₂)



ガソリン使用料(kℓ)

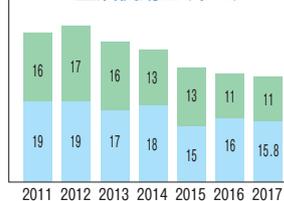


紙使用量(t)

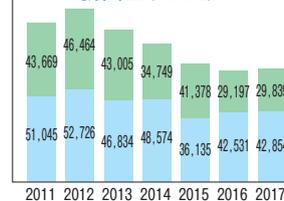


研究船

A重油使用量(千ℓ)



CO₂排出量(tCO₂)



かいりい



ちきゅう

廃棄物排出量(t)



紙使用量(t)



「ちきゅう」では、紙の削減活動を行っておりますが、2013年度までについてはデータが取得できていないため、数値を記載しておりません。

④ 環境配慮活動の実績・評価

2017年度の主な環境配慮活動の実績と評価については以下のとおりです。2018年度につきましても引き続き省エネルギー、省資源、廃棄物排出量の削減、環境に配慮した契約など、種々の環境配慮活動を積極的に推進し、前年度よりも良い環境パフォーマンスとなるよう努めて参ります。

| 項目 | 実績 (2016年度比) | 評価 |
|--------|--------------|---|
| 電気 | 約1%減少 | JAMSTECの電力消費の大部分は、地球シミュレータ及び空調設備の稼働によるものです。2015年度に地球シミュレータの後継機の運用が開始され、大幅な使用量の削減を達成し、以降はほぼ同水準で推移しています。今後についても同様な水準で推移するものと推測されますが、電気使用量は地球シミュレータの稼働率に大きく影響され、計算機能を利用する研究の内容並びに稼働実績が年ごとに変動するため、目標設定が難しいところではありますが、総合的なエネルギー使用の合理化に努め、諸々の節電対策を実施し削減に取り組めます。 |
| 燃料油 | 約1%増加 | JAMSTECの油類の使用量のほとんどが船舶の運航に係わるA重油です。そのため、船舶の運航形態（航走距離、速力、調査海域、稼働率など）により使用量は変動しますが、船舶における2017年度の燃料油の消費量は2016年度と比較して約1%増加しておりますが、ほぼ同水準で推移しています。今後も燃料消費の削減に配慮した運航計画を策定するなど、出来る限りの燃料使用量削減に取り組めます。 |
| 水 | 増減なし | 水の使用量については、2015年度以降、陸上及び船舶の双方でほぼ同水準で推移しています。陸上での水の使用は地球シミュレータの空冷設備の使用に占める割合が高いですが、2015年度に設備更新を行った結果、水の使用は大幅に削減され、それ以降はほぼ同水準で推移しています。今後も節水活動、水資源の循環利用に積極的に取り組めます。 |
| ガス | 約13%増加 | JAMSTECでは都市ガスとLPGを使用しています。主な用途は多目的プールの温水ヒーターや暖房、食堂での調理などに使用しています。船上ではガスは使用していません。2017年度のガス使用量は2016年度と比較して約13%増加しています。これは、寒冬のため暖房の使用が増加したこと、加えて多目的プールの使用が増加したことで温水ヒーターの稼働率が増加した結果であると推測されます。2014年度に地球シミュレータの空調設備をガス式から電気式に更新した以降はほぼ横ばい状態が続いています。今後も使用量の削減に取り組めます。 |
| 廃棄物 | 約14%減少 | JAMSTECの廃棄物排出量は、船舶からの廃棄物の排出量によって大きく変動するため、船舶の稼働率に依存します。陸上での2017年度の排出量は、2016年度と比較して約7%程度増加していますが、これは高知コア研究所における廃棄物の排出のうち、これまで排出量を把握することが難しかった廃棄物については、廃棄物の種類ごとに係数を定めて新たに算定・計上したことによるものです。この点を勘案すると、廃棄物排出量はほぼ同水準で推移しています。船舶での2017年度の排出量は2016年度と比較して、約20%減少しています。これは、荒天による避泊、避航、待機が生じたことで研究開発業務に係る船舶の稼働率が低下し、廃棄物の発生が抑えられたものと考えられます。今後も引き続きあらゆる業務において廃棄物が極力出ないような工夫を行うなど、排出量の削減に努めてまいります。 |
| 紙 | 約7%減少 | JAMSTECでは、法人文書や会議資料の電子化、両面コピーや裏紙の使用などを推進し、紙の使用量を抑える活動を継続して取り組んでいます。会議ではpdfファイルで資料を配布しパソコンで閲覧する方法を採用しており、紙による資料の配布は一部のみとなっています。このような取り組みにより、2017年度は2016年度に比べて約7%削減することができました。今後も出来る限りペーパーレスに取り組む、削減に努めます。 |
| 温室効果ガス | ほぼ同水準 | JAMSTECのCO ₂ 排出量は、ほぼエネルギーの消費に由来するものです。2017年度の排出量は2016年度と比較して、陸上で約6%減少、船舶で約1%増加し、総量としてはほぼ同水準で推移しています。陸上における約6%のCO ₂ 排出量の削減は、温室効果ガス排出量の算定に用いる電気事業者ごとの係数が2016年度と比較して小さくなっていることが主な要因であると思われます。今後とも2018年6月に制定した「地球温暖化対策実行計画」に掲げる目標を達成すべく、温室効果ガスの排出量削減に取り組んで参ります。 |

⑤ 環境に配慮した調達・契約

■ 環境に配慮した調達・契約の概要

JAMSTECではグリーン購入法及び環境配慮契約法の規定に則り、グリーン購入を推進するための方針（環境物品等の調達の推進を図るための方針：調達方針）を作成し環境物品の調達を行うとともに、国が定める環境配慮契約の基本方針に従い環境配慮契約を推進する体制を整備しています。なお、グリーン購入に係る方針、調達率、実績及び環境配慮契約に係る実績については、ホームページ上に公開しています。

http://www.jamstec.go.jp/j/about/procurement/kankyo_hairyo.html

■ 調達の方針

当機構では平成30年度の調達方針を以下のように定めています。

平成30年度における国立研究開発法人海洋研究開発機構の環境物品等の調達の推進を図るための方針

I 特定調達物品等の平成30年度における調達の目標

平成30年度における個別の特定調達物品等（環境物品等の調達の推進に関する基本方針（平成30年2月9日閣議決定。以下「基本方針」という。）に定める特定調達品目毎に判断の基準を満たすもの。）の調達目標は、調達を実施する全ての項目について100%（調達目標については詳細な事項がありますので、具体的な内容は上記URLをご参照ください。）とします。

なお、基本方針に規定された判断の基準は、あくまでも調達の推進に当たっての一つの目安を示すものであり、できる限り環境への負荷の少ない物品等の調達に努めることとします。

II 特定調達物品等以外の平成30年度に調達を推進する環境物品等及びその調達の目標

物品の選択に当たっては、エコマークの認定を受けている製品またはこれと同等のものを調達するよう努めます。画像機器等、電子計算機等、オフィス機器等、家電製品については、より消費電力が小さく、かつ再生材料を多く使用しているものを選択します。

III その他環境物品等の調達の推進に関する事項

1. 環境物品等の調達を推進するため、「環境物品等の調達推進体制」を定め、推進体制を整備します。
2. 本方針は海洋研究開発機構全ての部署を対象とします。
3. 機器類等については、できる限り修理等を行い、長期間の使用を推進します。
4. 調達する品目に応じて、エコマークやエコリーフなどの第三者機関による環境ラベルの情報を十分に活用するなど基本方針に定める判断の基準を満たすことにとどまらず、できる限り環境負荷の少ない物品の調達に努めます。
5. 物品等を納入する事業者、役務の提供事業者、公共工事の請負事業者等に対して事業者自身が本調達方針に準じたグリーン購入を推進するよう働きかけるとともに、物品の納入に際しては、原則として本調達方針で定められた自動車を利用するよう働きかけます。
6. 事業者の選定に当たっては、その規模に応じてISO14001又は環境活動評価プログラム等により環境管理を行なっている者又は環境報告書を作成している者を優先して考慮するものとします。
7. 調達を行う地域の地方公共団体の環境政策及び調達方針と連帯を図りつつグリーン購入を推進します。
8. 本方針に基づく調達担当窓口は経理部契約第1課とします。

■ グリーン購入の実績

平成29年度の「環境物品等の調達を促すための方針」に定めた各品目の目標調達率を達成したものは29品目（平成28年度は26品目）でした。

研究開発で使用する調達品目についてはグリーン購入法非適合品もありますが、環境配慮に関する関係法令の遵守を前提として環境負荷の低減に配慮し、特に文具類について特定調達物品の調達率向上を図るなど、法律の趣旨を踏まえ、一層の改善に努めて参ります。

各品目に対する実際の調達率など具体的な実績につきましては、以下のURLをご参照ください。

http://www.jamstec.go.jp/j/about/procurement/pdf/kankyo_jisseki_h29.pdf

■ 調達に関連したその他の取組み

① 特定調達物品等以外の環境物品等の調達状況

特定調達物品以外の環境物品等については、3R（reduce・reuse・recycle）の推進を図り、エコマークの認定を受けたもの、または同等品のものを選択し消費電力が小さく、かつ再生材料などを使用したものを選択するよう努めました。

② その他環境物品等の調達推進に関する事項について

平成29年度の調達方針に表記した事項の他、契約業者等にグリーン購入の推進を呼びかけ、また、機構内では両面コピー・使用済み裏紙コピーの活用、分別ごみ回収の促進に努めました。

● 電力の供給を受ける契約

【横須賀本部】

| | |
|---------|--|
| 契約期間 | 平成28年4月1日～平成31年3月31日 |
| 契約電力 | 1600kW |
| 予定使用電力量 | 6,294,000kWh（平成29年度分） |
| 契約方式 | 事業者の環境配慮の取組状況により入札参加資格を制限する一般競争入札（裾切り方式）（注1） |
| 入札申込者 | 4者 |
| 落札者 | 丸紅新電力株式会社 |

【高知コア研究所】

| | |
|---------|--|
| 契約期間 | 平成29年4月1日～平成30年3月31日 |
| 契約電力 | 561kW |
| 予定使用電力量 | 3,393,566kWh |
| 契約方式 | 事業者の環境配慮の取組状況により入札参加資格を制限する一般競争入札（裾切り方式）（注1） |
| 入札申込者 | 1者 |
| 契約相手先 | 四国電力株式会社 |

■ 温室効果ガス等の排出の削減に配慮した契約の締結実績

国等における温室効果ガス等の排出の削減に配慮した契約の推進に関する法律（環境配慮契約法）に基づき、平成29年度における温室効果ガス等の排出の削減に配慮した契約の締結実績は以下のとおりです。

① 平成29年度の取組み

環境配慮契約法及び国及び独立行政法人等における温室効果ガス等の排出の削減に配慮した契約の推進に関する基本方針（基本方針）に基づき、可能なものについて温室効果ガス等の排出の削減に配慮した契約（環境配慮契約）を締結しました。

② 環境配慮契約の締結状況

基本方針で環境配慮契約の具体的な方法が定められている電気の供給、自動車の購入及び賃貸借、船舶の調達、省エネルギー改修事業（ESCO事業）、建築物の建築又は大規模な改修に係る設計業務、産業廃棄物処理のうち、電気の供給に関してはJAMSTECの3拠点、産業廃棄物の処理に関してJAMSTECの2拠点において、それぞれ以下のとおり環境配慮契約を締結しました。なお、自動車の購入及び賃貸借、船舶の調達、ESCO事業、建築物の建築又は大規模な改修に係る設計業務については環境配慮契約により調達した案件はありませんでした。

【横浜研究所】

| | |
|---------|--|
| 契約期間 | 平成29年4月1日～平成30年3月31日 |
| 契約電力 | 動力需要：3,300kW 電灯動力併用需要：1,480kW |
| 予定使用電力量 | 動力需要：29,893,800kWh 電灯動力併用需要：7,658,000kWh |
| 契約方式 | 事業者の環境配慮の取組状況により入札参加資格を制限する一般競争入札（裾切り方式）（注1） |
| 入札申込者 | 1者 |
| 契約相手先 | 東京電力エナジーパートナー株式会社 |

●産業廃棄物処理に係る契約

【横須賀本部】

| | |
|--------|--|
| 契約期間 | 平成29年4月3日～平成31年3月29日 |
| 廃棄予定数量 | 67トン |
| 契約方式 | 事業者の環境配慮の取組状況により入札参加資格を制限する一般競争入札（裾切り方式）（注2） |
| 入札申込者 | 3者 |
| 契約相手先 | 株式会社神奈川保健事業社 |

【横浜研究所】

| | |
|--------|--|
| 契約期間 | 平成29年4月3日～平成30年3月29日 |
| 廃棄予定数量 | 15トン |
| 契約方式 | 事業者の環境配慮の取組状況により入札参加資格を制限する一般競争入札（裾切り方式）（注2） |
| 入札申込者 | 1者 |
| 契約相手先 | 武松商事株式会社 |

（注1）当該入札の申込者のうち、二酸化炭素排出係数、未利用エネルギー活用状況、再生可能エネルギー導入状況、グリーン電力証書の調達者への譲渡予定量に係る数値をそれぞれ点数化し、その合計が基準以上である者の中から、最低の価格をもって申込みをした者を落札者とするもの。

（注2）当該入札の申込者のうち、環境配慮への取組状況及び優良基準への適合状況をそれぞれ点数化し、その合計が基準以上である者の中から、最低の価格をもって申込みをした者を落札者とするもの。

⑥ いろいろな環境配慮活動

■ 省エネルギーの取組み

①通年で継続して行う省エネルギー対策

◆照明の消灯

業務上特に必要な場合を除き、昼休み、夜間は消灯し、廊下、エントランスホール等は、安全上支障のない範囲で消灯する。

◆OA機器

業務上支障のない範囲で、パソコン、複合機等の電源をこまめに切る。

◆会議資料

特に必要な場合以外は両面コピーとし、報告書等は概要資料とする。

②クールビズ

◆2018年度の実施期間

平成30年5月1日（火）～9月30日（日）

※10月においても各自の判断で軽装可能

◆具体的な取組み事項

◇適正な室温管理

冷房時の室温が概ね28℃となるよう、設定温度を調節する。

◇軽装の励行

通常業務及び会議において上着、ネクタイの省略を励行する。また、その旨を看板等で掲示し、来訪者にも周知する。

以上のほか、各拠点で実施されている環境配慮の取組みについては、3. 各拠点の環境パフォーマンスと取組みをご覧ください。

■ 廃棄物の処理

①陸上施設における廃棄物処理

陸上施設から発生する廃棄物の処理については、廃棄物処理法や放射線障害防止法を始めとする廃棄物それぞれの種別に応じた関連法令に基づき処理を行っています。

基本的には産業廃棄物として処理を行っていますが、4R（Refuse, Reduce, Reuse, Recycle）を推進するため、家電リサイクル法の対象となる家電製品やパソコンなどを始め、紙などの再資源化可能な廃棄物に関しては可能な限り資源化し、コピー用紙の両面コピーや裏紙の使用、文房具のリユース、トナーカートリッジやインクカートリッジのリサイクルなどを行い、廃棄物の排出量を抑えるように努めています。

一方、陸上施設で発生した生活排水については、浄化槽で処理を行った後、公共用水域（海域）に放流して処理を行うか、下水道が整備されている地区の事業所では下水道に放流を行っています。

②船舶における廃棄物処理

船舶から発生する廃棄物の処理については、海洋汚染防止法等の法令に基づき処理をしますが、船舶で発生した廃棄物は原則として船内に保管し、着岸後に産業廃棄物などとして陸揚げして処理をしています。船舶からの廃棄物についても、可能な限りリサイクルを行い、通函（かよいばこ：物品を輸送する際に繰り返し使用される箱のこと。）を使用するなどして廃棄物の発生を抑制するよう努めています。

なお法令の基準の範囲内で、船内で発生した一部の廃油については焼却して処分を行い、残飯などの食品屑についてはグラインダーで粉碎した後、海中に放出して処理を行っています。

一方、船内で発生するふん尿等の汚水については船内の

汚水処理設備において浄化した後、排出可能な海域において海洋中に放流しています。また、風呂からの排水など一般的な生活排水は、排出可能な海域でそのまま海洋中に放流して処理を行っています。

③PCB廃棄物

横須賀本部ではトランスなどで使用されていたPCB（ポリ塩化ビフェニル）を廃棄処分の受入体制が整うまでの間保有していましたが、2017年11月に全量を搬出し、処分しました。

■ 環境を考える日

横須賀本部では毎週水曜日を「環境を考える日」と定め、構内放送により職員に室内の消灯などを呼びかけています。

放送文：『毎週水曜日は環境を考える日です。昼休みには室内の照明を消灯するなど省エネルギーと環境に配慮した生活を心がけましょう』

■ ライトダウンキャンペーンの取組み

毎年6月21日～7月7日に実施されるライトダウンキャンペーンは、地球温暖化防止のために環境省が2003年から実施している照明の消灯を呼び掛けるキャンペーンであり、キャンペーン期間中の夏至の日（6月21日頃）と7月7日（クールアース・デー）については特別実施日として設定され、夜8時から10時までの2時間について一斉に消灯をするよう呼びかけられています。

これを受けてJAMSTECにおいても職員にキャンペーンの趣旨を事前に周知し、消灯の実施を呼びかけました。また、安全上・業務上支障のない範囲で20時～22時の外灯の間引き点灯や昼休み時間（12時15分～13時）中の室内消灯を行いました。

■ エコキャップの収集



エコキャップ（2017.12.7回収）

JAMSTECでは2009年度から横須賀本部、横浜研究所、むつ研究所、国際海洋環境情報センターでペットボトルのキャップ収集を開始し、一般社団法人グループMATEに送付しています。

■ ビーチクリーン

JAMSTECは海に関する研究や開発を行っている研究所です。そこで、日頃お世話になっている「海」に対し感謝するため、公益財団法人かながわ海岸美化財団の支援を得てビーチクリーン（海岸清掃）を定期的に行っています。これまでに行ったビーチクリーンの実績は次の表のとおりです。これからも、微力ながらも海岸の美化に貢献していきたいと考えています。



ビーチクリーン（2018.1.27材木座海岸にて）



ビーチクリーンを実施した材木座海岸（中央の川より右側の海岸）
* ドローンの使用が認められている区域からドローンにより撮影

| 実施日 | 実施場所 | 参加者数 |
|---|-------|------|
| 2018. 1. 27 | 材木座海岸 | 11名 |
| 2016. 6. 11 | 逗子海岸 | 21名 |
| 2016. 1. 16 | 由比ガ浜 | 21名 |
| 2015. 6. 13 | 材木座海岸 | 30名 |
| 2014. 11. 30 | 材木座海岸 | 24名 |
| 2013. 12. 7 | 七里ガ浜 | 19名 |
| 材木座海岸・由比ガ浜・七里ガ浜：神奈川県鎌倉市 逗子海岸：神奈川県逗子市 | | |

■ 循環使用・再利用

横須賀本部から排出される生活排水は浄化槽で処理を行った後、海域へ放流していますが、夏場の雨が少ない時期などはこの処理水を緑地管理に使用し水資源の節制に努めています。使用量は1日当たり5～10m³です。